

地域学部 地域学科 国際地域文化コース

募集人員(予定)

4人

3年 | 鶴田 幸貴 さん (つるた こうき)

[私立長崎南山高等学校 出身]



鳥取のお気に入り

新鮮な魚の美味しさに感動

鳥取の魅力はやはり日本海の幸。マグロ、ハマチ、鯛などがのった海鮮丼がめちゃくちゃ美味しい！回転寿司のネタも分厚くて食べ応えたっぷり。毎年冬には実家に松葉ガニを送っています。

■ 自信を持ってありのままの自分を伝えよう

地元・長崎県諫早市に伝わる伝統芸能「浮立(ふりゅう)」を守り、発展させるには？大学ではそんなことを学びたいと考えていた僕は、高3の夏、地域実習が豊富な鳥大のAO入試を第1志望に決めました。願書は本番の用紙をコピーして何度も下書き。先生に添削をお願いしたら「何を伝えたいのかさっぱり分からない」と注意されガックリ…。自分のウリや鳥大で何を学びたいのかを前面に出し、そこに地域活動や高校での経験を盛り込み、肉付けしていく形でまとめていきました。

オープンキャンパスで知り合った県外の友達とTwitterで話していたとき、偶然にも在学中の先輩との出会いが。自身のAO経験を詳しく教えてくれた上、「格好つけないでありのままに話せばいいよ」と励ましてくれたのはうれしかったですね。

1次面接は福岡会場で受験。鳥取まではJRで6～7時間はかかるので大助かりでした。あらゆる質問・状況を想定し面接練習をしっかりとこなしてきたから本番では緊張もなく、むしろ「めいっぱい話したい!」という気持ちに。アドバイスどおり“ありのままの自分”を笑顔で話すことができました。

■ グループ討論は話す力・聞く力の両方を駆使

自己表現の試験は、「浮立」のことや高校での生徒会活動、短期海外留学の経験などをプレゼン形式で伝えることに。話すスピードや目線、進行の仕方、画面の指し示し方に気を配り、英語も交えて説明。プレッシャーに負けないよう、学校一怖い先生に試験官役をお願いするなどして練習しました。実際本番でも無表情な先生がおられて少し焦ったのですが、練習のおかげで最後までやり通すことができました。

課題論文は他大学の過去問も活用して対策。示されたキーワードについて何も知らなかったらアウトなので、新聞・TVニュースのチェックは必須です。

グループディスカッションでは、女子の積極性&的確な意見に圧倒され、くじけそうになったけれど、資料を読んで重要だと思う箇所に線を引き、自分の意見を整理。必ず質問をしないとイケないので、仲間の発言はメモを取りながら聞きました。それを受けて自分はどう展開していくのか、そこがポイントですね。



平成29年度AO入試

第2次選考

<選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成29年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成30年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、AO入試の過去問題は、平日の9:00～17:00に、鳥取キャンパスは入試課、米子キャンパスは医学部学務課で閲覧することができます。

全体を通して
求める力

文化、地域、国際交流など地域と文化に関する分野に関心があって、他者の話によく耳を傾けて理解しようとする姿勢や深く考えを掘り下げる姿勢、それらをわかりやすく表現する力を求めます。

自己表現	「自己の知識や経験等」に関する自己アピールを、1人あたり15分で行いました。
グループ ディスカッション	「剽窃」「盗作」と「オリジナリティ」について論じた3つの資料(A4版で5枚)を読んだうえで、1グループ8名で150分のグループディスカッションを行いました。進行は教員が行いました。
課題論文	「ぐずぐずする権利」について論じたエッセイ(A4版で2枚)を読み、90分で設問(2問)に解答するものでした。設問の内容は、筆者のとらえる「ぐずぐずする権利」を要約するものと(200字以内)、「ぐずぐずする権利」についての自分の考えを論述するものでした(800字以内)。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり15分の面接を行いました。